

2015年(平成27年)

5/21(木)

Thursday

きょうの

発言

太平洋戦争敗戦時、旧内地を含む日本各地には陸海軍の飛行場が約220カ所ありました。緒戦の真珠湾攻撃等で航空機の重要性が高まり、熊本でも陸軍7、海軍2、特攻攻撃用の秘密飛行場5カ所が造られました。ただ、日本の敗戦により写真などを含む公文書の多くが焼却され、詳細は不明です。もはや熊本の旧軍飛行場を知る手がかりは、米国の写真や米

高谷 和生 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長

## 熊本の旧軍飛行場

軍が撮影したガンカメラ映像しかないと思っていた矢先、1冊のアルバムが芦北町在住のご遺族から提供されました。アルバムは岡山県津山市出身の故重松瑞男少尉のもので、第86戦闘操縦学生として訓練に励んだ隈之庄飛行場（熊本市南区城南町）の様子や、指導教官として勤務し、編隊飛行で「キクチ」の文字を描いた菊池飛行場（菊池市）の日々などが収められています。

3年間にわたり、ご遺族の多大な協力を得ておぼろげながらも、一人の軍人が生きた軌跡を追うことができました。旧台湾で生活した家族の肖像や、徴兵、転科後の航空兵として激しい訓練、自身の結婚とご遺族である長女の誕生。1944年11月14日、フィリピン・ネグロス島沖での空中戦での戦死、残されたご遺族の戦後まさに、太平洋戦争で戦没した230万人の中の一つの命でした。

2015.5.21